

笠間市社会福祉協議会

北川根支部だより

第134号



発行日 平成30年 1月 1日
 発行 笠間市社協北川根支部
 編集 北川根支部広報委員会
 印刷 (株)クリエイティブサンエイ

恭賀新年



支部長
鈴木 裕

新年おめでとうございます。

会員及びご家族の皆様におかれましては、お揃いで新年をお迎えになられたこと、謹んでお慶び申し上げます。

一昨年に続き昨年も、自然界の中で人の力の無力さを感じさせられる事が多くありました。特に雨による災害(7月九州北部豪雨・10月台風21号関東縦断)がありました。限られた地域に、短時間に集中的に雨が降り、河川の堤防が決壊一挙に水が氾濫して災害をもたらしました。災害への復興と災害に見る課題に対して、私たちは人間の持っている知恵と助け合いで前向きに歩んでいます。

現在の課題でもある高齢化への対応においても知恵と助け合いで解消していかなければなりません。合併当時8万人を超えていた人口も11年過ぎ75698人、世帯数が28603世帯、高齢化率(65歳以上)が友部地区は27%。本支部においては、人口5756人、世帯数224



6人、世帯数224

5世帯、65歳以上人口1359人で高齢化率は23・6%です。年々高齢化率は増えます。現在は現役世代が「騎馬戦型」(1人/3人)で支えています。が、今後は「肩車型」「おんぶ型」(1人/1人)に進むことでしょう。益々地域で支え合うことが重要になります。先を見すえた取り組みを構築しなければと心に期しています。

平成二十九年度の支部事業も円滑に運営でき、残すところ僅かとなりました。今後も「地域に寄り添い住民の幸せを願って」役員一同活動を展開してまいります。皆様方にとって最良の年でありまうお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。



女性部長
上野 昌子

明けましておめでとうございます。皆様にはお揃いで良いお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

日頃の女性部活動に際しましては、深いご理解とご協力を頂きまして心からお礼申し上げます。

社会状況も日々変化中、私達の活動も漫然と例年の行事を踏襲するだけでは済まなくなっており、昨年は、北川根小学校のご協力を頂き、収穫祭にバザーを実施し、収益金は活動資金とさせて頂きました。

また、友部駅前前のトモア内に、ボランティアの皆様の努力によりNPO運営の子ども食堂がオープンし、大きな反響を呼びました。このように、福祉への関心がだんだんと高まって来ているように思います。

超高齢化社会を目前にして、一日でも長く元気で豊かな日々を過ごすことが出来るようにと願わずには居られません。女性部の活動も、そのお手伝いをしたいと思いつつ、また、新しい年を過して行きたいと思っております。どうぞよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

北川根支部研修(バス)

日時：平成30年1月17日(水)
 蘭学めぐり

場所

(旧堀田邸・佐倉順天堂記念館・武家屋敷・国立歴史民俗博物館)

集合：午前8時30分
 場所：友部社会福祉会館
 参加費：1,500円(昼食代・入場料等込)
 定員：40名(先着順)

※各支部委員(区長)等を通じて参加者募集



わが地域 ⑪

湯崎地区



湯崎城の城郭跡

湯崎地区にある湯崎城は、いつたれによって築城されたのか、あまり知られていなかった。その資料があると聞いたので、上野公資宅に伺って見せていただきまし。かなり詳しく書かれておりまして、まとめますと、以下のようなことが分かりました。

鎌倉幕府の時代は、常陸守護小田・穴戸一族にとつての勢力争いの相手は、常陸大掾(だいじょう)一族の吉田氏と佐竹・江戸両氏であった。その後、鎌倉幕府は滅亡し、室町

幕府の時代になり、約60年の長きにわたり、敵味方が入り乱れ戦いが続いた。南北朝時代の始まりの頃に、湯崎城は、穴戸氏の本拠地である穴戸城を守る東南方面の備えとして、領主穴戸朝里が一族の穴戸上野四郎知連に命じて築城したものと推定されます。貞和二年(1346)に住吉の教住寺が新たに開山されているので、これと考え合わせると、築城時期は、この寺の開山の数年前後と思われる。この湯崎城は、湯崎地区の田向の北側の大地にありまして、近くを奥谷街道や、鯉淵、水戸への街道が通じ交通の要衝でもあった。

天保七年(1836)の村絵図面(上野長文氏蔵)を見ると、舟型の城跡が書かれており、築城当初より、幾度か改築があったことがうかがわれます。

文明十三年(1481)五月に水戸の江戸氏と小鶴原で戦った時、小田氏より小幡城の救援の依頼があり、小田・穴戸・笠間・大掾氏らの連合軍は、穴戸持久が軍代を勤め、湯崎城に三千余騎の武者が集結して小幡城に向いて出陣した記録が残されておられます。それほど大きな城であつたが、天正十九年(1591)の穴戸氏滅亡後は佐竹氏が支配したが、慶長七年(1602)佐竹氏が秋田へ国替えになり廃城となった。文化財である。湯崎城本郭跡は笠間市指定昭和三十二年の中頃まで、一部の堀がありましたが、それも埋め戻され、現在には北西の山側に一部堀を残すのみであります。

(上野 忠夫)

合同茶話会

日光街道へ
「船村徹記念館」

Aグループ：11月1日(水)

仁古田東部、仁古田西部、石沢、湯崎、田向、岱長、兎路、下長、兎路、長兎路、三区、東原、随分附本郷、随分附新田、柏井、旭丘、柏井団地、旭ヶ丘団地

11月1日と6日、各班とも30名の参加者を頂き、抜けるような青空の下、紅葉の美しい日光市の船村徹記念館へ行つて来ました。

久し振りにお会いした方々も居られたらしく、思い思いにお話はずんできた様子でした。

今市の道の駅、「ニコニコ本陣」はシーズン中でもあり大勢の人で賑つており、私達もあの歌、



Bグループ：11月6日(月)

住吉新宿、住吉本宿、旭団地、西協、長野、グリーンウッド、陸団地、西原、西原住宅、住吉団地、みどりの団地

編集後記

優勝確実と思われ、たの最後に最後で逆転されたり、故障続きで期待を裏切るなどうまくいかないこともありま。結果は結果として、いまやるべきことにきちんと取り組みたい。(藤森)

この歌を口ずさみながら館内を見学しました。「歌は心でうたうもの」と言つた船村徹の人生とその仕事の内容が多く展示品により紹介されており、日本人の心の琴線にふれるような名曲を作つた偉大な人であつたと、再認識して来ました。

その後、昼食を楽しみ、おかし工房や漬物屋さんで買い物をして帰途につきました。バスの中では恒例のビンゴゲームでひとときを過ごし、来年の再会を約束しながら無事に帰つて来ました。

(上野)